飯田市歴史研究所ホームページ:https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.138
The Iida City Institute of Historical Research

2025 年 10 月1日発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL　0265-53-4670
FAX　0265-21-1173
E-mail:iihr@city.iida.nagano.jp

開催報告

第 22 回飯田市地域史研究集会

農業から拓く飯田下伊那の歴史

1 日目 基調講演の様子

9月6日（土）・7日（日）に、第 22 回飯田市地域史研究集会を開催しました。今年は「農業から拓く飯田下伊那」をテーマとして掲げ、飯田下伊那の人々の暮らしや社会の姿を、特に農業の生産や技術の歴史から浮き彫りにしようと試みました。

1日目の多和田雅保さん（横浜国立大学）による基調講演「農書から見る江戸時代の飯田」では、島田村（現飯田市松尾）の森本家で作成された江戸時代の農書「農業雑記」が取りあげられました。米、里芋、茄子などの作物の生産方法に関する記述や、その典拠を検討するなかで、農業を通して地域社会を論じるための視角が提示されました。そののちは、自由論題報告として、町田良さん（京都大学大学院生）から 1970 年代龍江地区の地域開発について、青島重行さん（歴研・満洲移民研究ゼミ）から満洲移民ののちシベリアで死去した祖父・青島秋夫さんの日記について報告がありました。

2 日目 全体討論の様子

2日目は、農業と地域の関係を多角的に捉える4本の報告がおこなわれました。午前は、福嶋紀子さん（松本大学／中央大学大学院）から、白米とは異なる「赤米」と呼ばれるイネの品種が地域社会に与えた影響について、竹村雄次さん（歴研・特任研究員）から、幕末に下伊那で広まった「不二道」の活動を事例として、宗教と農業との関係について報告がありました。午後は、寺田一雄さん（柳田國男記念伊那民俗学研究所）から、聞き取りを通して明らかになる飯田下伊那の養蚕業と農家の暮らしや生活について、小川秀和さん（長野県南信農業試験場）から、南信農業試験場の一世紀のあゆみと、これからの取り組みについて述べられました。報告ののちは参加者も含め討論・意見交換をおこない、現代の農業が抱える課題も触れつつ、活発な議論が交わされました。

パネル展示と書籍コーナー

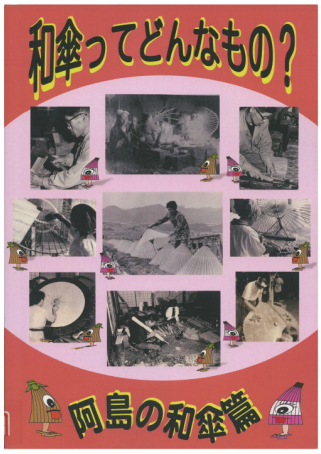
2日間で、のべ 142 名の方にご参加いただきました。また、会場では南信農業試験場の取り組みや、研究員の研究活動に関するパネルの展示をおこない、多くの方に関心をもっていただくことができました。（研究員　岩田会津）

飯田歴研賞 ―The IIHR Award― 2025
受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関するすぐれた作品に対し、飯田歴研賞をお贈りしています。2025 年度は 3 作品が受賞され、9 月 6・7 日に開催された地域史研究集会において授賞式を行いました。受賞者の皆様からのコメントを紹介します。

著作賞　小林旅人さん

『和傘ってどんなもの？阿島の和傘編』（喬木村文化遺産プロジェクト推進委員会、2024 年 3 月）



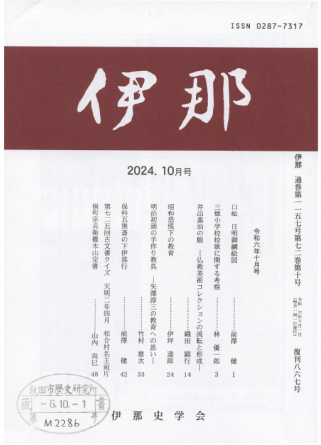
阿島傘は江戸期から続く「長野県が誇る伝統文化」のひとつです。雨傘を作り続けている家では日本一古い「菅沼商店」、伝統を繋げようと傘の魅力を伝える「阿島傘の会」は 20 年以上続く「日本一長い和傘授業」を継続されてます。日本から消えそうな和傘文化ですが、喬木村の子供達は毎年日本一を更新し続けています。

本書は菅沼商店さんの大正頃からの所蔵写真や阿島傘の会の資料など、伝統を繋げてくれた方々のおかげで纏める事が出来ました。

是非、皆様も阿島傘の事を知り、後世に繋げる 1 人となって頂ければ嬉しく思います。

論文賞　林優一郎さん

『三穂小学校校歌に関する考察』（「伊那」第 72 巻第 10 号、伊那史学会、2024 年 10 月）


ISSN 0287-7317

伊那

2024. 10月号

伊那　通巻第一二九七号第七二巻第十号　令和六年十月号　復刊八六七号

令和六年十月号

目次　日本語繊絵図 …… 座馬　健 1
三穂小学校校歌に関する考察 …… 林　優一郎 3
井山嘉治の眼 ―公教美術コレクションの流転と形成― …… 織田　縫行 14
昭和戦後下の教育 …… 伊那　達郎 24
明治期頃の手作り教具 ―先達修学への教育への思い― …… 竹村　健次 33
保科五郎著の手伊拓行 …… 座馬　健 42
第七二回民俗文書クイズ　天明一年四月　和合村名主宛片 …… 山内　貞巳 48
保科宗兵衛戦死出征書

飯田市歴史研究所
-6.10.-1
M2286

伊那史学会

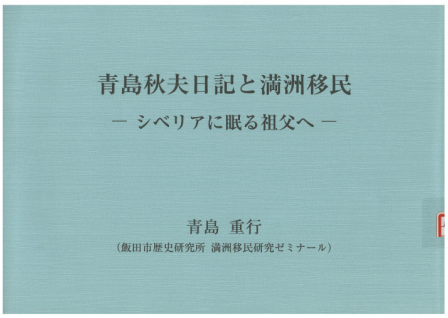
この度はこのような素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。今回の受賞は、これまで多くの地域の皆さんが、小学校に関わる諸資料を丁寧に記録していただいたことの延長にあると、つないできてくれた先人たちに改めて感謝いたします。

今回の調査において、仮説を立て史実を確認しながら考察していくことの「楽しさ」を感じる一方で、紐解いた研究から現在を俯瞰して捉え、そして未来に向けた取組や実践に如何にしてつなげていくかが大切なのではと思いを強くしています。

今回の受賞を機に、小学校記念誌のタイトルに込めた「次世代へつなぐ」を意識しながら、引き続き地域の調査・研究、そして未来へつながる実践を行っていきたいと考えています。

奨励賞　青島重行さん

『青島秋夫日記と満州移民－シベリアに眠る祖父へ－』　（2025 年 3 月）



この度、飯田歴研賞（奨励賞）を受賞することとなり大変光栄に思います。この受賞はひとえに飯田市歴史研究所、並びに同満洲移民研究ゼミの皆さまをはじめ、多くの皆さまから惜しみないご指導、ご支援と励ましのお言葉をいただいたお陰と深く感謝しております。満洲移民研究は先人のご努力により近年、認知度が向上し、公にも議論されるようになったところかと思いますが、私にとってはまだまだ学ばなければならないことばかりです。満洲移民は加害と被害（犠牲）が重層的かつ複雑に絡んでいます。戦後 80 年が経過した現在、満洲移民の孫世代である私たちは、二度とあの過ちを繰り返さないよう、その複雑性を受け入れ、哀しみや怒り、負い目などに向き合いながら、この史実を伝え続けていく責務があると思っています。

ミニ リレーエッセイ ㊶

捕虜収容所のあった村の「平和の使者」たち

原　英章（歴史研究所調査研究員）

アジア太平洋戦争中に連合軍捕虜収容所（満島収容所）があった天龍村では、戦後の横浜裁判で監視人など６名が捕虜虐待罪で死刑になった。その中に地元住民がいたこともあり、戦後しばらく村内では、捕虜や彼らが強制労働させられた平岡ダム建設のことはタブーになっていたそうである。しかし、2000年発刊の『天龍村史』に平岡ダム建設の歴史が詳述され、その遺族がたどった苦難のあゆみも明らかにされた。同年、「連合軍捕虜犠牲者鎮魂碑」が元収容所の傍らに建立され、同時期に満島収容所の元英国軍捕虜ウイリアム・ローズさんが天龍村を訪問し、戦争中の日記を村へ寄贈した。そして、授業でその日記の翻訳に取り組んだ中学生たちが、ローズさんを訪ねることを模擬議会で提案し、村の援助のもと８回にわたって中学生の英国訪問が実施された。

その中学生たちが作成した新聞「PEACE～平和～」が「なんでも館」に今も展示されており、そこには「平和の使者イギリスへ」という見出しがつけられている。中学生たちは、2004年の飯田市地域史研究集会で、「天龍村が平和と友好の架け橋になることです。更に中国や朝鮮からの強制労働のあった収容所の村の歴史を学習していきたいと思います」と報告した。先日その一人で、現在長野県職員の女性と電話で話す機会があった。「この時の経験がその後の進路を決めることになった」と語ったことが印象的であった。山口県宇部市の「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」のリーダー井上洋子さんも天龍村出身であり、彼女は故郷の歴史を大学生になって知り、それが現在の活動につながっていると言う。

戦時下に捕虜収容所が置かれ、そこで外国人の強制労働が行なわれていたという、いわば「負の歴史」も、まぎれもない村の歴史として向き合い、そこから出発することの大切さを天龍村の事例は示している。

職場体験を受け入れました

7月11日・12日に飯田ＯＩＤＥ長姫高校商業科２年生３名のインターシップ(職業体験)を受入れました。11日は登録済みの市の非現用文書を研究所から愛宕・押洞書庫へ移す作業に参加しました。作業後は大正６年（1912）に建てられた愛宕蔵（喜久水酒造の旧蔵）の建物を見学し、地域に残る建物の歴史的価値について知見を深めました。12日は飯田アカデミア「商業は地域をどう変えたのか－日本小売業の近現代史－（講師　満薗勇さん）」の開催日で会場準備や受付を行いました。商業科の生徒であり、講義も合わせて受講しました。「高校の授業では聞けない話」と、高校と大学の授業内容の違いを感じたようでした。

建物見学を行う飯田OIDE長姫高校の生徒達

7月24日・25日には旭ヶ丘中学２年生２名の職場体験学習を受け入れました。24日は伊賀良地区の本棟造住宅について現地調査を行いました。自分たちの通学路周辺に百年二百年を経過した建物が多くあることに驚きがあったようです。25日は現状記録調査へ参加しました。史料一点一点に注意を払って扱っていました。史料の解説を、社会科で習った内容などを思い出しながら聞いていました。身近に歴史的なものがあることを知り、史料の保存などについて考える機会になったようです。

現状記録を行う旭ヶ丘中学校の生徒達

開催告知

飯田アカデミア 第108講座

「戦後の地域の歴史と個人の歴史」

開催日　12月6日(土)・7日(日)
講　師　安岡　健一さん（大阪大学／歴史研究所顧問研究員）
会　場　飯田市役所C棟3階会議室（オンライン受講併用）　※ 資料代 500円（高校生以下無料）

■ **講師より**

1日目は戦後の農村の話題です。①敗戦直後の戦後開拓とはどのようなもので、満洲開拓とはどうかかわったのか、②長寿県として知られる長野県では、健康に生きるため、どのような活動があったのか、を考えます。2日目は個人の歴史を取り上げます。オーラルヒストリーなどについて学んだのち、参加者が自らの歴史を振り返り、他の参加者と話しあう時間を設けます。これらを通じて、参加者が今と地続きの現代史について考える機会にします。

12/6（土）戦後の農業・農村
第1講 13:30～15:00「満洲開拓から戦後開拓へ」
第2講 15:15～16:45「健康な暮らしのための活動」

12/7（日）個人の歴史の意義
第3講 9:00～10:30「オーラルヒストリーとは何か」
第4講 10:45～12:15「個人の記憶を回想するグループ活動」

お申込み　**申込締切：12月3日（水）**
参加方法：会場またはオンライン
申込方法：① Webフォーム　② 電話、FAX、Eメール
（1）氏名・電話番号・受講方法をお知らせください。
※ オンライン受講はメールアドレスもお願いします。
（2）①Webフォームからは、キャッシュレス決済のご利用が可能です。

※1講座のみご参加も可能です
Web申込みは こちら ▶

定例研究会　「明治期上飯田村の土地利用と水系」

報告者　岩田　会津（歴史研究所研究員）　**開催日**　10月25日(土)
会　場　歴史研究所 研修室　**時　間**　14:00～16:00
※聴講をご希望の方はお電話又はメールでお申込みください。

受講生募集中!!

歴研ゼミ＆ワークショップ　10月・11月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ
「飯田御用覚書」を読む
担当：羽田 真也（研究員）
10月8日・22日／11月12日・26日
(第2・4水曜日) 18：30～20：30

建築史ゼミ
身近な空間の歴史を調べてみる
担当：岩田 会津（研究員）
10月17日／11月21日
(第3金曜日) 18:30～20:30

地域史ゼミ
大正期LYL事件の刑事記録を読む
担当：伊藤 悠（研究員）
10月9日／11月13日
(第2木曜日) 13：30～15：30

思想史ワークショップ
清水幾太郎『天皇論』他の輪読と論議
市民の皆さんが自主的に学び合う場
10月1日・15日／11月5日・19日
(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ
文書・記憶・個人の記録から考える
担当：本島 和人（調査研究員）
第165回 10月4日／第166回 11月1日
(第1土曜日) 10:00～11:40

近現代史ゼミ
昭和11年胡桃澤盛日記を読む
担当：田中 雅孝（調査研究員）
※10月25日休講　11月22日
(第4土曜日) 10:00～11:40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。　TEL：0265-53-4670
開所時間：午前9時～午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信をご希望の方は、E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp まで